

そうじの力だより

VOL.237



支援レポート

「捨てる」とは、本当に大切なものを見極める行為
↳ 環境整備で臆み出しを

ある社会保険労務士事務所の事例をご紹介します。

一年ちよつと前に、知り合いの社労士の方からご連絡をいただきました。「おかげさまで、多くの顧問先を抱えて忙しい。それだけに、書庫や事務室内がモノであふれ、書類の整理・整頓、適切な保存なども上手にできていない。自分の頭の中も整理できていない。社員も疲弊している。これを、環境整備で改善していきたい」とのこと。

さつそく事務所に伺ってみると、確かにデスク上と足下は書類の山。書棚には本があふれ、倉庫も物品や書類でパンパンに詰まっています。

一番のポイントは、これらがすべて、必要なものなのかどうか、です。不要なものを捨てることで、環境が整うと同時に、頭の中も整理できてくるはずです。お手伝いをスタートしました。

最初に取り組んだのは、書籍の整理です。本棚にはたくさん本が並んでいるのですが、すべて二列に、つまり、本の前に本が重ねて並べられていています。人事労務関係のノウハウ本をはじめ



本が二列に並んでいる本棚(Before)

め、経営についての本、そして人間学の本など、かなりの量です。

それらをいったん全部出して、要否を判断してもらいました。ノウハウ本については、法改正や制度改定などもあるの、旬を過ぎたら使えないものもあります。今後、読む可能性のあるものだけに、どんどん捨てても

初以下の分量に減らすことができ、本棚に



すっきり一列に収まった本棚(After)

同時に、手元に控えて残しておくものについても、データ化できるものはデータ化して、物量を減らすとともに、検索しやすくしました。

次に、社会保険関係の書類については、本来、手続きが完了した後は、顧問先に返却すべきなのに、返却されずに保管されたままになっているものが多くありました。それらを、一つひとつ、顧問先に返していきました。

同時に、手元に控えて残しておくものについても、データ化できるものはデータ化して、物量を減らすとともに、検索しやすくしました。そのおかげで、当初、あふれかえって山積みになっていた書類がなくなり、すべてキャビネに収めることができました。

環境整備の結果として、

執務エリアにあって大柄なキャビネを廃棄し、代わり

に低い書類棚を置くことが出来ました。作業性が良くなる

同時に、大地震の際に、倒れてくる心配もなくなり



低くオープンな書棚に変更(After)



執務エリアの大柄なキャビネ(Before)

この過程で、いくつか定期購読していた雑誌も、とても読み切れないので、絞り込んで解約して、業務上不可欠なものだけにしました。

同様に、いくつか入っていた外部の勉強会も、一つを残してすべて退会し、それらに関する負担を減らしました。

さらに、顧問報酬の体系についても、創業時に設定した割安のものそのままだったのですが、この際、全面的に見直すことにしました。

顧問先の中には、当初契約時には社

員が数人だったものが、今では五〇人以上になっていて、仕事量が膨大になってくる。閉ざる報酬のまま請け負っている、ということもありました。

そういった顧問先に、適正な報酬に改定していただくように依頼していただきました。中には、それを拒む顧問先もありましたが、そういうところに対しては、勇気をもって契約を打ち切りました。ありがたいことに、お互いの信頼関係ができていた顧問先は、今回の改定を快く承諾してくれました。

一方、環境整備を進める中で、二人のスタッフが辞めていきました。直接の原因は労働条件だったようですが、こうして「そうじ」の活動をしていると、不思議と合わない人は辞めていくのです。他社でも、こういったことは、よくあります。ある意味、「臆み出し」をしているとも言えるでしょう。

環境整備を通じて、いろいろなものを捨てていったわけですが、それはつまり、本当に大切なものを見極め、それに集中していくプロセスだとも言えるでしょう。

(小早)



以前は乱雑に積まれていた封筒類(After)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



コラム

鍵山秀三郎さんを悼んで
～素手でトイレ掃除について～

本年一月二日に、イエローハットの創業者で、日本を美しくする会の相談役である鍵山秀三郎さんが、九一歳でお亡くなりになりました。

鍵山さんが提唱したトイレ掃除が全国に拡がっていくと、一部のマスコミが騒ぎ出しました。「鍵山は素手でトイレ掃除をさせている。問題だ」と。

素手でトイレ掃除がなぜ問題なのでしょう？

おそらく、トイレには恐ろしいバイ菌がうようよしているのだから、素手で掃除などしたら、感染症になってしまうのではなか、という主張なのでしょう。

また、トイレは汚いだから、その汚いものに素手で触らせるというのは、体罰のようなもので、横暴だ、というようなことでしょうか。

しかし大事な論点として、鍵山さんは、決して素手を強要はしていません。実際、掃除に学ぶ会などでも、ゴム手袋を着用して参加している人もいます。

そして、素手でトイレ掃除には、ちゃんとした意味があるのです。

まず、素手の感触というのが、とても大切だということ。素手で便器に触れると、ヌメツとしているのか、ザラツとしているのか、キュツとしているのか、感じることでできます。それによって、汚れが落ちていくのか、キレイになったのかを判別することができます。

また、手袋をはめていては、雑巾をしつかり絞ることができませんが、素手なら

ば、ギュツと絞ることができます。

それに、トイレが汚いから手袋をするのかもしれないが、そのトイレを素手で触れるくらいにピカピカにきれいにするのが掃除です。手袋をはめていては、そこまでキレイにしようという気にならないかも

しれません。トイレにはバイ菌がうようよしている、というの、本当でしょうか？我々の尿や便には、そんな恐ろしいものが含まれているのでしょうか。だとしたら、それを排出する我々の体そのものが、有害な物質に侵されているということになります。

コロナ禍以来、世間では、マスクやゴム手袋を着用している人が増えました。「清潔」「無菌」「除菌」「感染予防」という言葉を唱えれば、何でも許されてしまふ。逆に、それに異を唱えようと、総スカンを喰らう。このような風潮に、とても違和感を覚えます。

人類は誕生以来、何万年もの間ずっと、マスクも手袋もなしで暮らしてきたのです。それで、いまだに人類は滅亡していません。さまざま菌やウイルスにさらされながら、免疫を獲得してきたのです。それが人類を強くしてきたのです。

逆に私は、無菌状態を目指そうとする行いこそが、人類を滅亡させてしまうのではないかと危惧しています。(小早)



編集後記

飛び受け身

合気道で、相手をバーンと投げ飛ばしているシーンを見たことがあるかもしれませんが、あれは投げているのではなく、受け手が自ら飛んでいるのです。

飛ぶことで、手首や肘などを傷めないように守っているのです。

その「飛び受け身」が、私は上手にできません。合気道を始めて16年、三段をいただいておりますが、お恥ずかしながら、この大事な飛び受け身ができないのです。

目下、体に鞭打って、猛特訓中です…。(小早)



飛鳥のつばやき

マグロへの道

子どもたち、初めての釣り体験へ。

温室内のいけすにいる小さな鯉を、簡易的な竿で釣るので、ポコポコ釣れるので2人とも大興奮！

(食欲すぎて、エサがなくても、釣り針がエラに引っ掛かって釣れる 笑)

よほど楽しかったようで、長男は将来漁師になってマグロを釣り、すし職人になって寿司を握りたいそう。

いけすの次は川？海？？釣りは今までの人生で未履修なので、勉強しないと～！(大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は「そうじ＝整理・整頓・清掃」を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)

X(旧ツイッター)で、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！